

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<第12週> 風しんの定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4-5

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 2004年の第9週からは、昨年までに比べて報告数が非常に多くなっている
<風しん> 本年は昨年に比べて、学童期や20歳以上の報告の割合が多く、成人の風しんがより多い可能性がある



病原体情報
P.6-7

患者から分離・検出された病原体報告 - インフルエンザウイルス 2003/04シーズン / 冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2003/04シーズン



速報
P.8-9

冬季に認められたアデノウイルス感染症の多発 - 佐賀県



海外感染症情報
P.10

モザンビークでのコレラ流行 / ナイジェリアでの髄膜炎流行 / ブルキナファソでの髄膜炎流行



感染症の話
P.11-14

<C型肝炎>
HCVは感染後、持続感染により慢性肝炎をひき起こすことがあり、さらに肝硬変、肝細胞癌へと進行することがある



P.15

読者のコーナー
(お知らせ)感染症発生動向調査事業年報平成14年版(CD-ROM版データ集)について



グラフ総覧(12週)
P.16-22



12週のデータ
P.23-32



発生動向総覧

*「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(11月5日施行)により、対象疾患、分類が一部変更されました(2003年第43号「速報」参照)

第12週コメント 3月25日集計分

全数報告の感染症

注意:これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が、集計の期日以降に届くこともあります。それらについては、発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。宜しく御理解下さい。

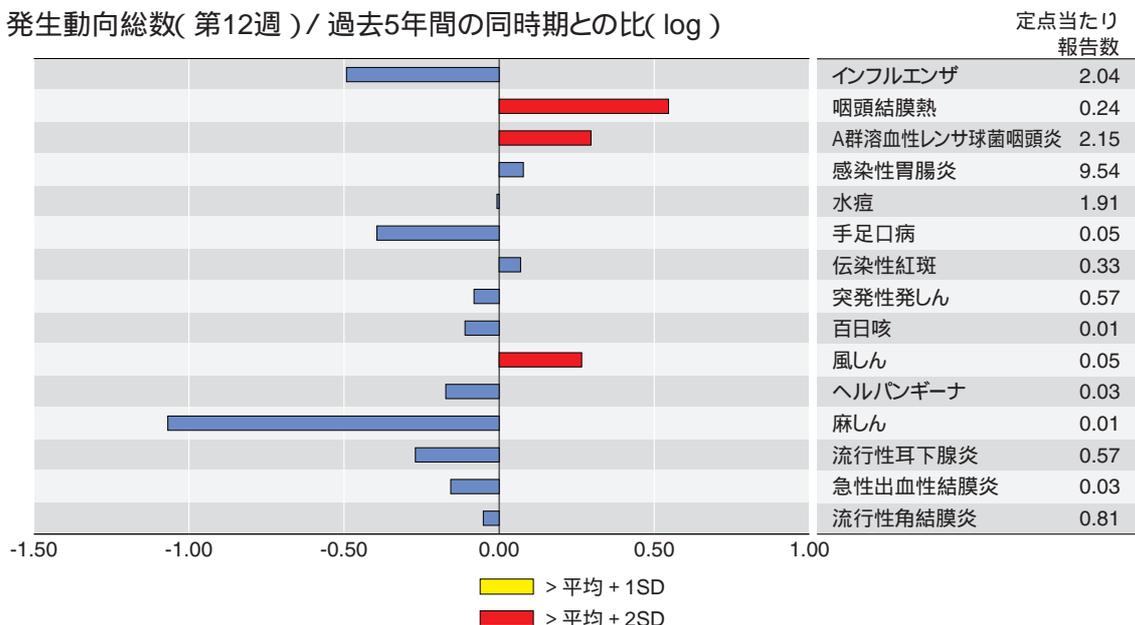
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢 5例(推定感染地域: 国内1例、インドネシア2例、アフガニスタン1例、モロッコ1例) 腸チフス 1例(推定感染地域: 国内)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 10例(うち有症者6例) 血清型・毒素型: O157 VT2 5例、O157 VT1・VT2 3例、O119 VT1・VT2 1例、その他(1例) 年齢: 10歳未満(4例)、10代(1例)、20代(2例)、30代(2例)、50代(1例)
- 4類感染症: つつが虫病 2例(宮崎県1例、鹿児島県1例) デング熱 2例(推定感染地域: マレーシア1例、インドネシア1例) マラリア 1例(熱帯熱、推定感染地域: ナミビア) レジオネラ症 4例(50代3例、60代1例) E型肝炎 1例(推定感染地域: タイ) A型肝炎 1例(推定感染地域: 国内)
- 5類感染症: アメーバ赤痢 7例(推定感染地域: 国内2例、フィリピン1例、シンガポール/韓国1例、その他1例、不明2例) ウイルス性肝炎 B型 1例(推定感染経路: 性的接触) C型 1例(推定感染経路: 不明) クロイツフェルト・ヤコブ病 2例(孤発性1例、GSS 1例) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(74歳) 後天性免疫不全症候群 10例(無症候7例、AIDS 3例) 推定感染経路: 性的接触9例(異性間3例、同性間6例)、不明1例 推定感染地域: 国内8例、カナダ1例、不明1例 ジアルジア症 1例(推定感染地域: 国内) 梅毒 2例(ともに無症候) 破傷風 1例(70歳)

(補)他にジアルジア症1例の報告があったが削除予定。また、報告遅れとして、E型肝炎1例(推定感染地域: 中国)、レプトスピラ症1例(推定感染地域: 国内)、急性脳炎1例(インフルエンザウイルスA、1歳)の報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

発生動向総数(第12週)/過去5年間の同時期との比(log)



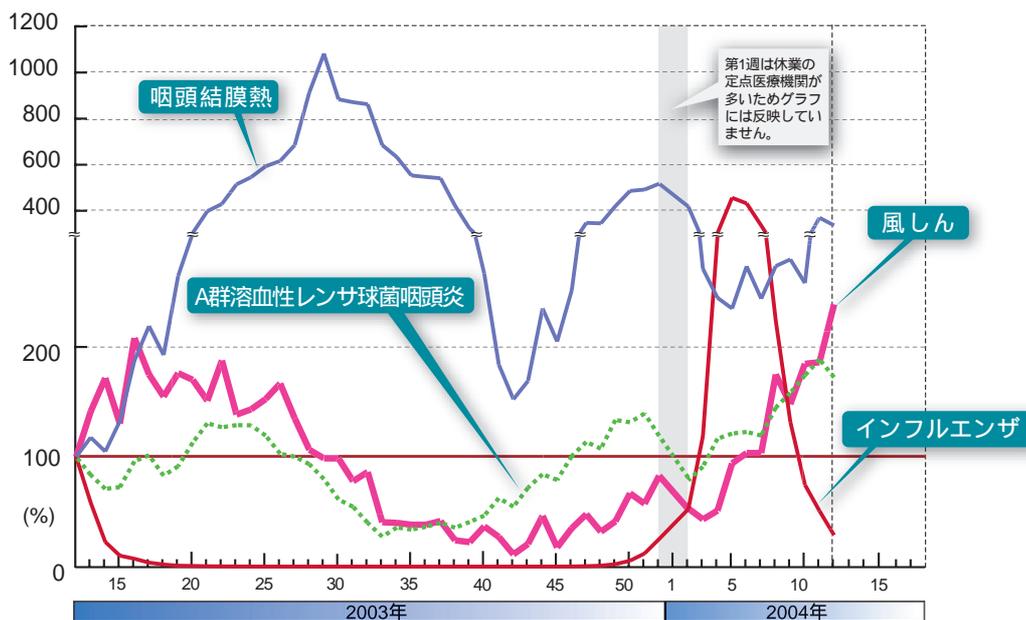
当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

インフルエンザ定点報告疾患：インフルエンザの定点当たり報告数は第5週をピークに減少し、第12週も減少した。都道府県別では大分県(9.5)、福井県(7.5)、山口県(5.6)、宮崎県(5.5)が多い。

小児科定点報告疾患：咽頭結膜熱の定点当たり報告数は夏季の流行の後、2003年第43週から再び増加傾向が認められた。その後第52週をピークに減少し、第3週からはほぼ横ばいで推移した後、第11週は増加したが、第12週は減少した。過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多く、都道府県別では宮崎県(1.3)、富山県(1.2)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2003年第51週をピークに減少したが、第3週から再び増加傾向が認められ、第8週からは過去10年間で最高の値を更新し続けたが、第12週は減少した。都道府県別では新潟県(8.0)、山形県(6.7)、富山県(5.3)が多い(「注目すべき感染症」参照)。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、第51週をピークに減少傾向が認められた後、第8週から再び増加していたが、第12週は減少した。都道府県別では大分県(19.7)、宮崎県(16.3)、三重県(15.3)が多い。水痘の定点当たり報告数は第2週に過去10年間で最高の値となった後減少し、第5週からは週により増減はあるがほぼ横ばいで推移している。都道府県別では沖縄県(3.7)、宮崎県(3.6)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第8週から緩やかな増加が認められていたが、第12週は減少した。都道府県別では山形県(1.6)、新潟県(1.4)、福井県(1.1)が多い。風しんの定点当たり報告数は微増し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、都道府県別では群馬県(0.4)、宮城県(0.3)、大分県(0.3)、栃木県(0.2)、鹿児島県(0.2)が多い(「注目すべき感染症」参照)。RSウイルス感染症の報告数は36都道府県から合計76例であった。

基幹定点報告疾患：マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加して0.18で、都道府県別では岡山県(1.2)、山形県(0.8)、秋田県(0.7)が多い。

主要疾患の過去1年間の週別定点当たり報告数の動き(第12週)



2003年第12週の定点当たり報告数を100%として各週の報告数値を換算し、過去1年間の増減を表している。



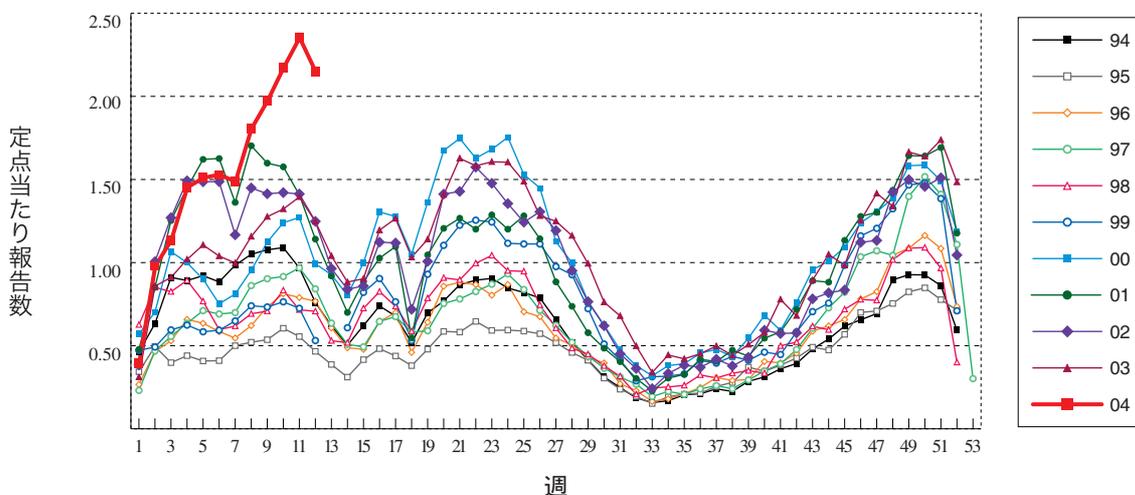
注目すべき感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌による感染症は、菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こす。日常よくみられる疾患として、急性咽頭炎の他、膿痂疹、蜂巣織炎、あるいは特殊な病型として猩紅熱がある。これら以外にも中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髓炎、髄膜炎などを起こす。また、菌の直接の作用でなく、免疫学的機序を介して、リウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすことが知られている。

本疾患の報告数は、迅速診断キットの普及などから近年増加していたが、昨年までに比べると、2004年の第9週から非常に多くなっている。都道府県別では新潟県(8.0)、山形県(6.7)、富山県(5.3)、宮城県(4.5)、鳥取県(4.2)などからの報告が多い。また、年齢群別では5歳前後の報告が多かった。

図．A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年別・週別発生状況
1994～2004年

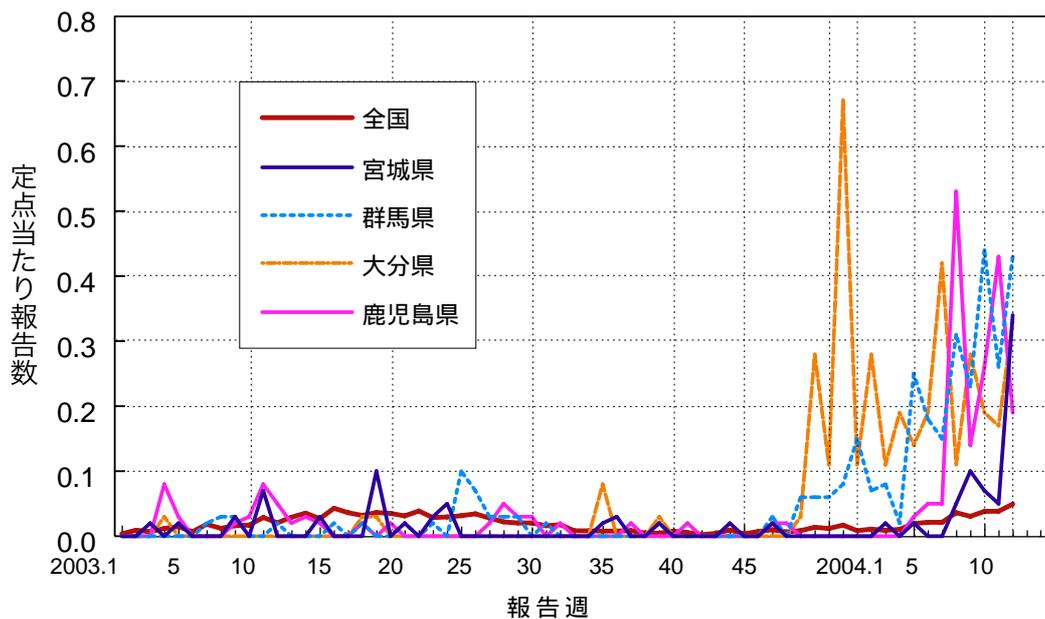


風しん

2003年9月まで風しん予防接種の経過措置のキャンペーンなども行われており、ここ数年、小児科定点から報告される全国の風しん患者数は、以前よりかなり少なくな推移している。しかしながら、本年の定点当たり報告数を都道府県別にみると、鹿児島県、群馬県、大分県など依然として報告数の多い都道府県もあり、第12週では宮城県でも報告が増加してきている(図)。患者の年齢群を比較してみると、本年は昨年と比べて、学童期や20歳以上の割合が多くなっている。これらの報告は小児科定点からの報告であるので、成人の風しんがより多い可能性もあり、予断を許さない。

風しんはワクチンで予防できる疾患であり、経過措置終了後の現在も、定期接種の対象者だけでなく、当時の経過措置の対象年齢層を中心に、免疫のない人達への任意接種の普及啓発が大切である。また、今年に入ってこれまでに2例の報告があった「先天性風しん症候群」の予防のためには、小児科ばかりでなく、特に妊婦や妊娠年齢の女性の管理を行う産科や婦人科においても、地域での風しんの流行状況などに細心の注意を払っていく必要がある。

図．風しんの週別報告数（2003年第1週～2004年第12週）





病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

各都道府県市の地方衛生研究所(地研)からの検出報告です。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2004年3月26日現在報告分)

インフルエンザウイルス 2003/04シーズン

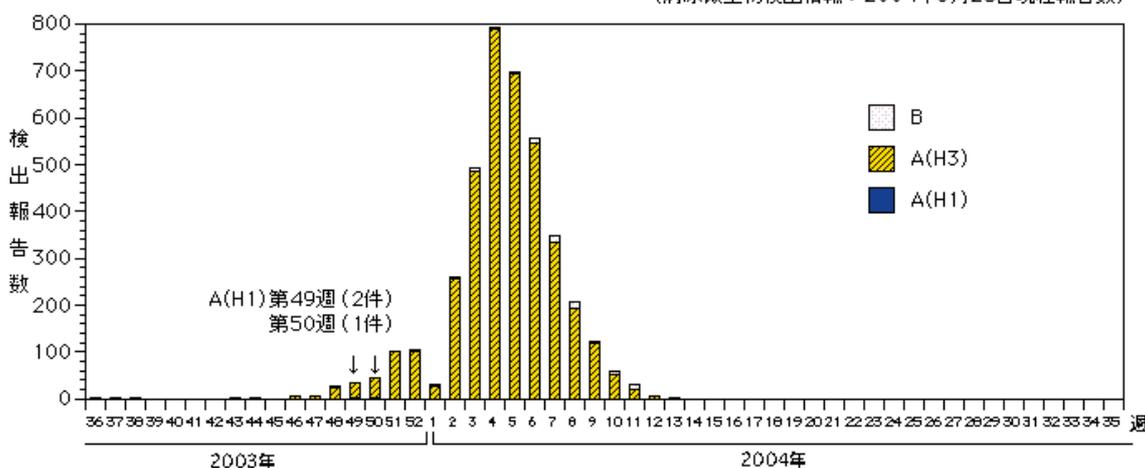
AH3型ウイルスの分離・検出報告がほとんどで、計3,848件(PCRのみの検出31件を含む)が報告されている。このうちN型別された242件はすべてN2であった。今シーズンは、2004年第1週まではさほど分離・検出数は多くなかったが、第2週以後大きく増加し、第4週にピーク(788件)を示している。第5週以降は減少し、第6週から第12週までの分離・検出数は545、335、192、120、51、21、5である。新たに茨城県からも分離が報告され、これまでに全国44都道府県から分離・検出が報告されている。

B型ウイルスの分離・検出報告は計101件(PCRのみの検出1件を含む)で、新たに石川県、奈良県から各1件の分離報告があり、これまでに全国30道府県から報告されている。第47週以降は少ないながらも毎週分離されており、第6週から第12週までの週別分離・検出数は11、15、16、2、7、9、2である。北海道21、静岡県15、兵庫県、福岡県各7、千葉県、福井県、佐賀県各6などからの報告が多い。

AH1型ウイルスの分離報告は計3件で、第49週に分離された長野県の1件(IDWR2003年第51号速報記事参照)と、埼玉県で分離された2件(第49週、第50週各1)の報告である。埼玉県の2件のうちN型別された1件はN1であった。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2003/04シーズン

(病原微生物検出情報: 2004年3月26日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



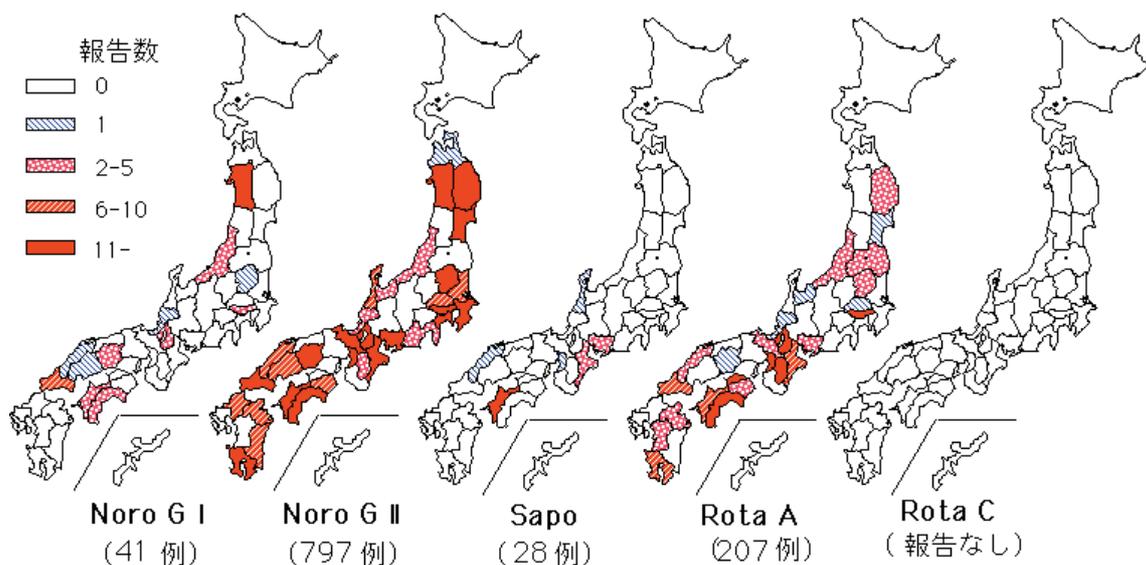
冬季の感染性胃腸炎関連ウイルス 2003/04シーズン

ロタウイルスは、例年年明け以降に増加し始めるが、今シーズンは第50週に小さなピーク(14件)を形成した後、2004年第4週から増加し始めている。第6週から第12週までの検出数は9、20、21、23、14、22、3である。報告のほとんどはA群で、これまでにA群は25都府県から計207件報告されている。このうち岡山県で検出された1件の血清型はG3であった。地域別では香川県33、高知県29、大阪府20、滋賀県18、奈良県18など、四国、近畿地方からの報告が多い。この他に群不明が6件(福岡県3、宮城県、愛媛県、三重県各1)報告されている。ほとんどが5歳以下の小児からの検出である。

小型球形ウイルス(SRSV)は、報告のほとんどがノロウイルスgenogroup(G)IIである。ノロウイルスGIIは秋田県84、岡山県75、愛媛県63、岩手県62、滋賀県58など、これまでに32都府県から計797件報告されている。ノロウイルスGIは12都県から41件の報告で、秋田県11、山口県8からの報告が多い。サポウイルスの報告は28件で、愛媛県の20件中10件は第50週に幼稚園で起きた集団発生事例からの検出である。この他に、ノロウイルスG不明が120件(新潟県32、熊本県24、山形県20、奈良県15、福井県14、東京都8、新潟県4、鳥取県3)、電頭のみによる検出が19件(岡山県14、栃木県5)報告されている。

都道府県別SRSV・ロタウイルス検出報告状況、2003/04シーズン

(病原微生物検出情報：2004年3月26日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report



冬季に認められたアデノウイルス感染症の多発 - 佐賀県

アデノウイルス(Ad)感染症の発生は通常通年性で、特に夏季中心に流行するとされているが、佐賀県唐津市の当院では、2003年の12月～2004年2月の冬季にAd感染症の多発を経験したので報告する。

発生状況: 2003年1月～2004年2月までの14カ月間に、当院でAd抗原迅速診断キット(チェックAd)を用いて診断を行った。チェックAdを実施したのは、咽頭炎(溶連菌感染症およびインフルエンザを除く)または感染巣不明の熱性疾患で、1)体温39℃以上、2)滲出性扁桃炎または結膜炎、3)白血球数増多またはCRP上昇、のいずれかを満たす症例のべ391例であり、うち陽性はのべ203例(52%)であった。2003年11月までは例年認められる発生パターン(3月・6月・11月に多い)であったが、2003年12月から症例数が急増し、12月が41例で最も多く、2004年1月35例、2月24例となり、この3カ月間だけで100例(49%)の発生が認められた。また、その中で臨床的に咽頭結膜熱と診断した症例の割合は、14カ月全体で45%、12月～2月の冬季(12月56%、1月49%、2月54%)に限ると53%であった。

PCR検査成績: 2004年1月5日～1月15日の間に当院を受診し、チェックAd陽性であった19例(6カ月～9歳: 男児11例・女児8例)の27検体(咽頭ぬぐい液17、尿9、便2、結膜ぬぐい液1)について、TOYOBO Mag Extractor“ genome ”キットによりAd遺伝子DNAを抽出して検査に供し、特異的PCRによる型同定を実施した。Ad遺伝子型特異的PCR法は、中和抗原性が偏在するヘキソン、ファイバー蛋白両領域の全塩基配列の中から、(1)サブグループ(A～Fまで)決定用に設定されたプライマーペア¹⁾、(2)3型すべてのサブタイプの一部塩基配列を増幅するプライマーペア¹⁾、(3)7型すべてのサブタイプの一部塩基配列を増幅するプライマーペア¹⁾、(4)C群(1, 2, 5, 6型)の一部塩基配列を増幅するマルチミックスしたプライマーペア²⁾、(5)D群(8, 9, 19, 37型)の一部塩基配列を増幅するマルチミックスしたプライマーペア²⁾を用いて1st PCRだけを行い、プロダクトの有無で判定した。19例は全例第2～5病日に診断され、臨床病型は咽頭結膜熱11例、咽頭炎8例で、滲出性扁桃炎の症例はなかった。最高体温は1例を除く18例で39℃以上であり、19例中9例(47%)が40℃以上であった。検査成績は、白血球数8,600～27,900/μl、CRP 1.1～7.1mg/dlであった。

2例を除いた17例からアデノウイルスDNAが検出された。咽頭結膜熱11例中Ad3 7例、Ad3+7 1例、型不明1例が検出され、咽頭炎8例中Ad3 2例、Ad3+7 1例、Ad7 1例が検出された。熱性けいれんを合併し、入院を余儀なくされた咽頭炎の症例では、咽頭からAd3、尿からAd7が検出された。夜間の著明な精神症状がみられた咽頭炎の症例では最高体温41℃で、尿からAd7が検出された。また、下痢がみられた7症例は、いずれも咽頭結膜熱の症例であった。

考察: Ad感染症は1年中発生が認められるが、夏季が中心であり、その中で臨床的に咽頭結膜熱と診断されるのは通常約30%程度とされている。2003年には、全国的にも咽頭結膜熱が過去10年間で最も多く報告されたが、当院ではインフルエンザが流行した冬季にもAd感染症の発生が目立ち、しかも咽頭結膜熱が約半数を占めたことが注目すべき点であった。

日本ではAd分離株の約3分の1をAd3が占める。Ad7は1995年4月以降相次いで報告されており、九州では1996年1月からAd7が分離されている。今回、2004年1月の咽頭ぬぐい液17検体からAd3+7 2例、Ad7 1例が検出されたことは、Ad7が特に基礎疾患を有する患児では重症化し、時に致死的となり得ることを考えると、臨床的にも注意すべきことと考えられる。Ad3はAd7に次いで重症化傾向が強いとされており、今回の検討でも最高体温が40 以上の症例がAd3陽性例(咽頭)9例中4例、Ad3+7陽性例(同)2例中1例であった。経過中最高体温が1度でも40 を超えることは、臨床的にAd感染症を疑う重要なポイントであるが、特にAd3とAd7では有用な所見と考えられた。また、眼症状はAd3、Ad7ともに頻度が高く、特にAd3では分離例の半数が咽頭結膜熱を呈したと報告されている。本院において今冬のAd感染症に占める咽頭結膜熱の割合が高かったことは、Ad3が原因ウイルスの主体であったことで説明可能と思われた。なお、今回はPCRを実施した症例数が限られており、2つの型での臨床像の比較は困難であった。

最近では迅速診断キットの普及により、一般小児科外来でもAd感染症を簡便に診断できるようになり、高熱患児家族への経過予測説明、および不安解消に役立ち、抗菌薬の適正使用という面からも重要である。夏季の流行期はもちろんであるが、冬季でも高熱患児(39 特に40 以上)を診た場合はAd感染症を常に念頭に置き、咽頭・扁桃所見、および眼症状に乏しい場合は積極的に血液検査を施行し、白血球数増多およびCRP上昇を参考にしながら、できるだけ早期に診断することが望まれる。その上で肺炎や中耳炎などの合併症、および重症化に注意して経過観察することが重要と思われる。また、致死的疾患を起こし得るAd7の流行状況には、今後も引き続き警戒が必要である。

【文 献】

- 1)向山淳司,他,臨床と微生物26(増刊号):114-125,1999
- 2)Adhikary A. K., et al., J. Clin. Path., 56:120-125,2003 and 57:1-7,2004

医療法人ひまわり 坂本小児科医院 坂本亘司
国立感染症研究所 感染症情報センター 向山淳司



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

モザンビークでのコレラ流行

WHO/CSR 2004年3月23日

モザンビーク保健省は、2003年12月20日～2004年3月18日に7つの州(Maputo, Gaza, Sofala, Zambesia, Nampula, Inhambane, Tete)で、合計で85名の死亡者を含む15,237名のコレラ患者が発生したと報告した。最も流行が深刻なのはマプト市で、9,522名の患者と37名の死亡者が発生した。

保健省は2004年1月9日にコレラ警報を発令した。WHOと他の機関、すなわちUNICEF、国境なき医師団、世界食料計画、USAID、イタリア政府などが流行制圧のため、現地の保健当局を支援している。

ナイジェリアでの髄膜炎流行

WHO/CSR 2004年3月26日

保健省は、Jigwa州の21地域で、327名の患者と46名の死亡者の発生を報告した。

血清型判定のために検体が採取された。保健省は、15万人分の2価ワクチン(A群、C群)を提供し、UNICEFは油性クロラムフェニコールを提供した。

ブルキナファソでの髄膜炎流行

WHO/CSR 2004年3月26日

保健省は、2004年1月1日～3月21日に、2,783名の患者と527名の死亡者の発生を報告した。Dieboungou地方、Naonoro地方、Gaoua地方、Zabre地方の4地方で流行閾値を超え、Koudougou地方、Po地方、Sebba地方、Seguenega地方では警戒レベルにある(流行閾値に関する詳細は、WERの記事を参照)。最近Naonoro地方で、髄膜炎菌A群とW135群が検査により確認された。

保健省からの要請に基づき、髄膜炎制圧のためのワクチン提供に関する国際調整グループは13万人分の3価ワクチン(A群、C群、W135群)を提供した。ワクチンキャンペーンがNaonoro地方で計画されている。



感染症の話

C型肝炎

1988年5月、米国カイロン社が輸血後非A非B型肝炎の原因ウイルスの遺伝子クローニングに成功したことがプレスリリースされ、翌年4月に初めて論文報告された。その後一気に、C型肝炎ウイルス(HCV)と名付けられたこのウイルスの感染に対する各種の診断技術が開発され、血液スクリーニングにいち早く導入されたため、輸血によるC型肝炎の発生は激減した。しかしながら、現在我が国には150万人以上の、全世界には約1.7億人も感染者が存在すると推定されている。HCVは感染後、持続感染により慢性肝炎をひき起こすことがあり、さらに肝硬変、肝細胞癌へと進行することがあるので、公衆衛生上最も重要な病原ウイルスのひとつである。

疫学

我が国のHCV感染者数は150万人以上と推定されている。全国の日赤血液センターにおける初回献血者のデータに基づいて、2000年時点の年齢に換算して集計したHCV抗体陽性率は、16～19歳で0.13%、20～29歳で0.21%、30～39歳で0.77%、40～49歳で1.28%、50～59歳で1.80%、60～69歳で3.38%である。HCV抗体陽性者の7割がHCV持続感染者(HCVキャリア)であるとすると、15～69歳までの年齢層の中で100万人近い人々が、HCVに感染していることを知らずに生活していることになる。

HCVの感染経路としては、感染血液の輸血、経静脈的薬物乱用、入れ墨、針治療、不適切な観血的医療行為などが考えられるが、個々の事例で感染経路を明確に証明することは困難に近い。我が国のC型肝炎患者のうち、輸血歴を有するものは3～5割程度であるが、現行のスクリーニングシステム実施下では、輸血その他の血液製剤による新たなC型肝炎の発生は限りなくゼロに近づいている。

HCV感染に伴って急性肝炎を発症した後、30～40%ではウイルスが検出されなくなり、肝機能が正常化するが、残りの60～70%はHCVキャリアになり、多くの場合、急性肝炎からそのまま慢性肝炎へ移行する。慢性肝炎から自然寛解する確率は0.2%と非常に稀で、10～16%の症例は初感染から平均20年の経過で肝硬変に移行する。肝硬変の症例は、年率5%以上と高率に肝細胞癌を発症する。40歳のHCVキャリアの人々を70歳まで適切な治療を行わずに放置した場合、20～25%が肝細胞癌に進展すると予測される。肝癌死亡総数は年間3万人を越え、いまだに増加傾向にあるが、その約8割がC型肝炎を伴っている。

病原体

HCVは一本鎖RNAウイルスで、フラビウイルス科の中でフラビウイルス属やペスチウイルス属とは異なる第三のヘパシウイルス属に分類されている。HCVゲノムには多くの遺伝子型が存在し、現在までに10種類以上の遺伝子型に分けられている。電子顕微鏡での観察から、HCVは直径50～60nmの球状のウイルスで、外被(エンベロープ)とコア蛋白の二重構造を有するとされている。また、HCVは約9.6kbのプラス鎖RNAをゲノムとして持ち、約3,010アミノ酸からなるポリプロテインをコードできる一つの読み取り枠(open reading frame: ORF)を有している。この前駆体蛋白質から、細胞のシグナラーゼとウイルス自身がコードする2種類のプロテアーゼによって、ウイルス粒子を形成する構造蛋白(core, E1, E2, p7)とウイルス粒子に含まれない非構造蛋白(NS2, NS3, NS4A, NS4B, NS5A, NS5B)が産生される。ゲノムの5'末端には、ウイルス蛋白の翻訳調節に働く領域が存在している。この領域は、多様性の高いゲノム配列の中にあつて、HCVクローン間で最もよく保存されており、HCV遺伝子検出に利用される。

臨床症状

A型、E型急性肝炎では突然の発熱で発症することが多いが、C型肝炎では全身倦怠感に引き続き、比較的徐々に食欲不振、悪心・嘔吐、右季肋部痛、上腹部膨満感、濃色尿などが見られるようになる。これらに続いて黄疸が認められる例もある。一般的に、C型肝炎ではA型やB型肝炎とは異なり、劇症化することは少なく、黄疸などの症状も軽い。慢性肝炎ではほとんどが無症状で、倦怠感などの自覚症状を訴えるのは2～3割にすぎない。気づかないうちに慢性の炎症状態が続き、血液検査で初めて肝機能異常を指摘されるケースも多い。肝硬変では倦怠感などの自覚症状の他に、クモ状血管腫、手掌紅斑、女性化乳房などの所見が認められることもあり、さらに非代償期に至ると黄疸、腹水、浮腫、肝性脳症による症状である羽ばたき振戦、意識障害などが出現するようになる。肝細胞癌を合併すると、初期は無症状であるが末期になると肝不全に陥り、他の癌と同様に悪液質の状態となる。

病原診断

C型肝炎の診断には血清抗体の検出と核酸・抗原の検出の2種類がある。一般的には、初めにHCV抗体検査が行われる。以前は非構造領域のNS4領域(C100-3)を抗原とする抗体アッセイ系(第一世代)が用いられていたが、後にC100-3抗原、コア抗原、NS3領域の抗原を組み合わせて検出感度を上げた第二世代、さらにNS5領域の抗原も含めた第三世代の抗体アッセイ系が開発され、利用されている。抗体検出方法としては凝集法(PHA、PA法)、酵素抗体法(EIA法)、化学発光酵素抗体法(CLEIA法)などが用いられている。

これらの抗体検査で陽性となった場合、(1)HCVに感染しているキャリア状態、(2)過去に感染し、現在ウイルスは排除された状態、の2つの可能性が考えられる。このようなHCVキャリアと感染既往者とを適切に区別するため、HCV抗体価を測定することと、HCV-RNAの検出検査を組み合わせる方法が一般的に行われている。また、急性C型肝炎においてもHCV抗体の陽性化には感染後通常1～3カ月を要する(ウインドウ期)ため、この時期の確定診断にはHCV-RNA定性検査が行われる。急性期にHCV抗体が検出されるのは50%以下であり、発症後3カ月目に90%、6カ月目にはほぼ100%陽性となる。HCV-RNA定性検査法としては、reverse transcription-polymerase chain reaction(RT-PCR)を利用したアンプリコアHCV-RNA定性法がある。本法は 10^2 コピー/ml程度の感度を有する。また、ウイルスの増殖状態や治療の効果判定、経過観察などのためにHCV-RNAの定量を行う。方法としては、RNAの内部標準を使用したりリアルタイムRT-PCR法、アンプリコアモニター法や分枝鎖標識DNAプローブを用いて定量する分枝鎖DNAプローブ(bDNA)法などが開発実用化されている。感度はリアルタイムRT-PCR法、アンプリコアモニター法、分枝鎖標識DNAプローブ法の順に低くなる。また、HCVコア抗原を検査する方法もあり、感度は分枝鎖標識DNAプローブ法と同等である。これはHCV粒子の構成蛋白を直接測定する方法である。

治療・予防

HCV感染の予防はまず感染経路を遮断する事であり、以前はHCVの感染経路のうち輸血によるものが5割を占めていたが、我が国では1989年世界に先駆けて献血時にHCV抗体をスクリーニングするようになってから激減した。しかしながら、極めて稀であるがこのような抗体を調べる方法では検出できない肝炎ウイルスの存在が問題となった。これらの輸血後肝炎の原因の多くは、血清学的検査法の「ウインドウ期」に献血された血液によるものである可能性が指摘さ

れたため、「ウインドウ期」血液に含まれる極めて微量のウイルスを検出する高感度な検査法として、核酸増幅検査(nucleic acid amplification test; NAT)が導入された。1999年、日本赤十字社はHCV、HBV、HIVの遺伝子を調べるNATセンターを設立した。現在、全国で献血された血液は各地の血液センターでスクリーニングされた後、血清学的反応で陰性の血液すべてを東京(大田区)、京都(福知山)、北海道(千歳)のNATセンターで核酸レベルの検査を行っている。献血後24時間以内に各血液センターに通知し、陽性血液は輸血用血液から除外して安全性を高めている。

厚生労働省は、実施すべきC型肝炎対策の規模を把握するための実態調査として、以前に非加熱血液凝固第VIII・第IX因子製剤を投与された患者を対象にしたC型肝炎検査を、2001年3月から7月にかけて実施した。1972～1988年に非加熱血液凝固第VIII・第IX因子製剤を使ったことがある全国803の病院・診療所の名前を公表し、該当者に血液検査を呼びかけたが、これは、(1)非加熱製剤による肝炎感染のケースが複数見つかったこと、(2)輸血と異なり、当人が投与されたことを知らない場合が多いこと、(3)病院側に投与した記録が残っていること、などの理由による。80年代半ばまで流通した非加熱血液凝固第VIII・第IX因子製剤は本来血友病の治療薬であるが、止血効果が高く、新生児出血、帝王切開、交通事故など様々な治療に用いられたことが分かっている。

この実態調査等に基づき、2002年に発足したC型肝炎等緊急総合対策では、以下の様な現行の健康診査体制を活用した肝炎ウイルス検査を実施しており、新聞、インターネットなどの政府広報などを通じて検査を呼びかけている。

- (1)老人保健法による肝炎ウイルス検査
- (2)政府管掌健康保険等による肝炎ウイルス検査
- (3)保健所等における肝炎ウイルス検査

(1)は、老人保健法による基本健康診査の中に肝炎ウイルス検診が取り入れられているもので、40歳から5歳刻みで70歳までの年齢の人が対象の「節目検診」、および、それ以外の年齢で過去に広範な外科的処置を受けた方など、感染リスクの高い希望者を対象とした「節目外検診」の二本立てで行われている。(2)では、35歳以上からの5歳刻みと、感染リスクの高い希望者の二本立てとなっている。また、(3)では、全国の保健所において、40歳以上の年齢の人に対し、無料で検査を実施している。

C型肝炎の治療は、病気の活動度や進行状態によって方法や効果が異なるため、治療薬や治療方針の選択については専門医による判断が必要である。最も有効性が確立している抗HCV薬はインターフェロン(IFN)である。従来の単独投与に加え、リバビリンとの併用療法に2001年12月から医療保険が適用されるようになり、また2002年2月からはIFNの保険適用上の投与期間の制限が撤廃され、IFN療法の選択肢は広がった。

一般に、IFNによってHCVが排除されるのは30%程度、リバビリンとの併用療法の場合で約40%と言われている。しかしながら、IFN療法でウイルスを排除できなかった場合でも、肝炎の進行を遅らせ、肝癌の発生を抑制、遅延させる効果を示すこともある。

また、IFN、リバビリン投与が無効で、ALTなどの肝酵素値が正常範囲を超えた高値の場合には、抗炎症療法(肝庇護療法)によって肝細胞の損傷や肝臓の繊維化を抑えることで、肝疾患の進行を防ぐ治療が行われる。

予防法として最も有効と思われるC型肝炎ワクチンは、依然として実用化されていない。C型慢性肝炎患者の血液中には、HCV蛋白に対する様々な特異的抗体が産生されるものの、ゲノムの多様性やエンペロープ蛋白にアミノ酸が変異しやすい領域が存在することなどから、中和抗体は産生されにくい。また、感染にともなってT細胞応答も惹起されるが、例えばB型肝炎などの場合と比べてウイルス特異的な細胞性免疫は誘導されにくいと考えられる。このようなことが要因となって、HCVは宿主の免疫監視機構から逃れ、高率に持続感染が成立するものと考えられている。HCVの持つこれらの性質、また、HCVを効率よく感染増殖させる細胞培養系や小動物モデルが確立されていないことも、C型肝炎ワクチン開発の大きな障害となっている。

感染症法における取り扱い

平成15年11月に感染症法が改正され、従来の「ウイルス性肝炎」は4類感染症の「E型肝炎」、「A型肝炎」、および5類感染症である「ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)」に分けられた。急性C型肝炎と診断した医師は「ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)」として、7日以内に最寄りの保健所に届け出る。「ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)」の報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって検査所見による診断がなされたもの

1) B型肝炎

- ・血清抗体の検出

例、患者血清中のIgM・HBc抗体が陽性のもの(キャリアの急性増悪例は含まない)

2) C型肝炎

- ・抗原の検出

例、HCV抗体陰性で、HCV・RNAまたはHCVコア抗原が陽性のもの

- ・血清抗体の検出

例、患者ペア血清で、第2あるいは第3世代HCV抗体の明らかな抗体価上昇を認めるもの

3) その他のウイルス性肝炎

HDV、HEVなど上記以外の肝炎ウイルスによる急性肝炎や、その他の非特異的ウイルスによる急性肝炎

病原体検査や血清学的診断によって、ウイルス性肝炎と推定されるもの

(この場合には、病原体の名称についても報告すること)

上記のウイルス性肝炎の届出基準を満たすもので、かつ、劇症肝炎となったものについては、報告書の「症状」欄にその旨を記載する。劇症肝炎については、以下の基準を用いる。

- ・肝炎のうち症状発現後8週以内に高度の肝機能障害に基づいて肝性昏睡II度以上の脳症をきたし、プロトロンビン時間40%以下を示すもの。発病後10日以内の脳症の出現は急性型、それ以降の発現は亜急性型とする。

(国立感染症研究所ウイルス第二部 鈴木哲朗)



読者のコーナー

〔お知らせ〕感染症発生動向調査事業年報平成14年版(CD-ROM版データ集)について

今般、感染症発生動向調査事業の一環として「感染症発生動向調査事業年報平成14年版(CD-ROM版データ集)」を作成しました。本CD-ROMには、平成14年の感染症発生動向調査に基づいたデータを掲載しておりますが、迅速な情報還元を目指したため、集計表、グラフと簡単な概要説明のみの内容となっております。また今回は、経年での傾向をみるための集計表、グラフを追加しました。

このCD-ROMをご希望の方は、送り先の宛名を書いたラベルと切手200円を同封し、「感染症発生動向調査事業年報平成14年版CD-ROM希望」と明記し、以下までお申し込み下さい。希望が多くなった場合、増刷のために時間がかかる場合がございます。また、予算の都合上供給できなくなる場合もございますので、ご承知おき下さい。

【申込先】

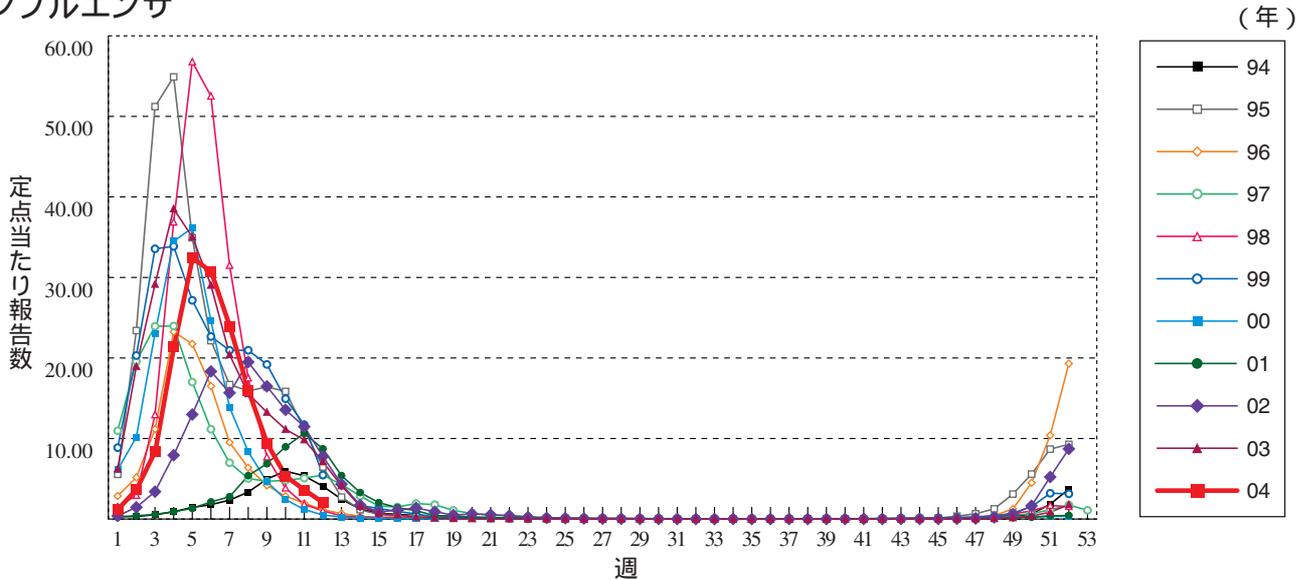
〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

国立感染症研究所感染症情報センター 木村 幹男

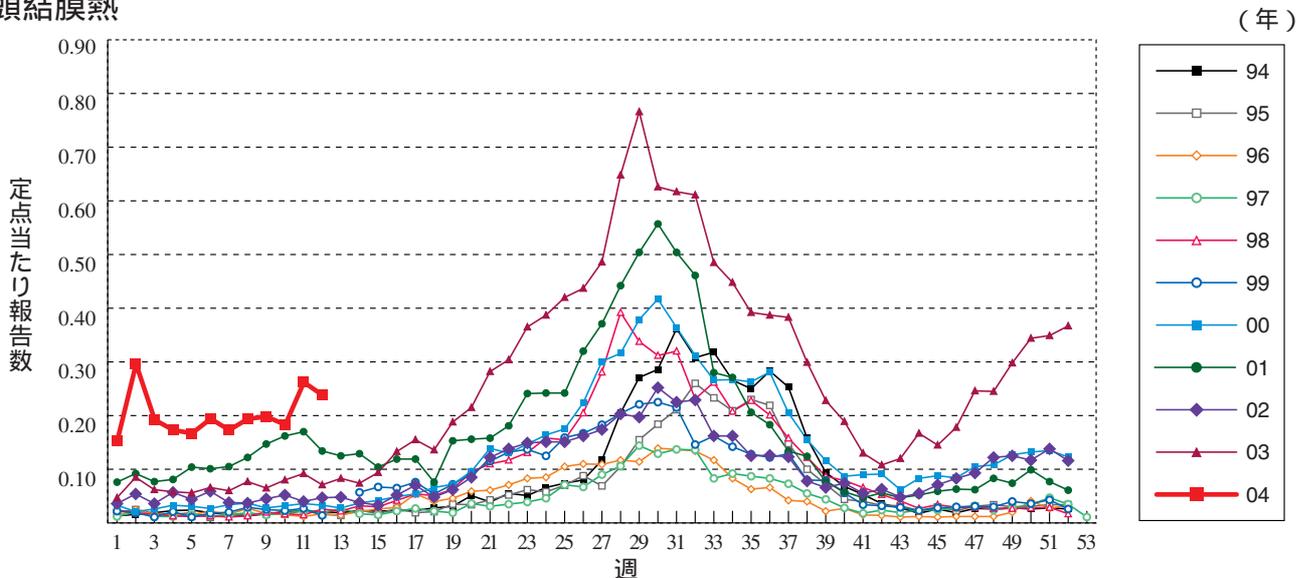


グラフ総覧(12週)

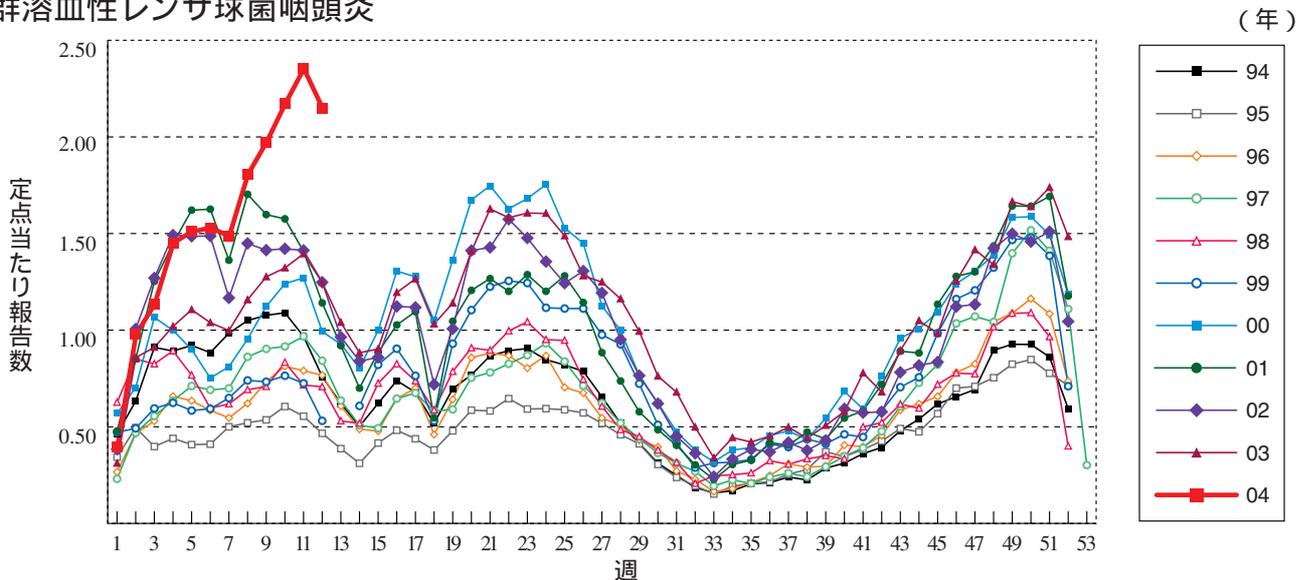
インフルエンザ



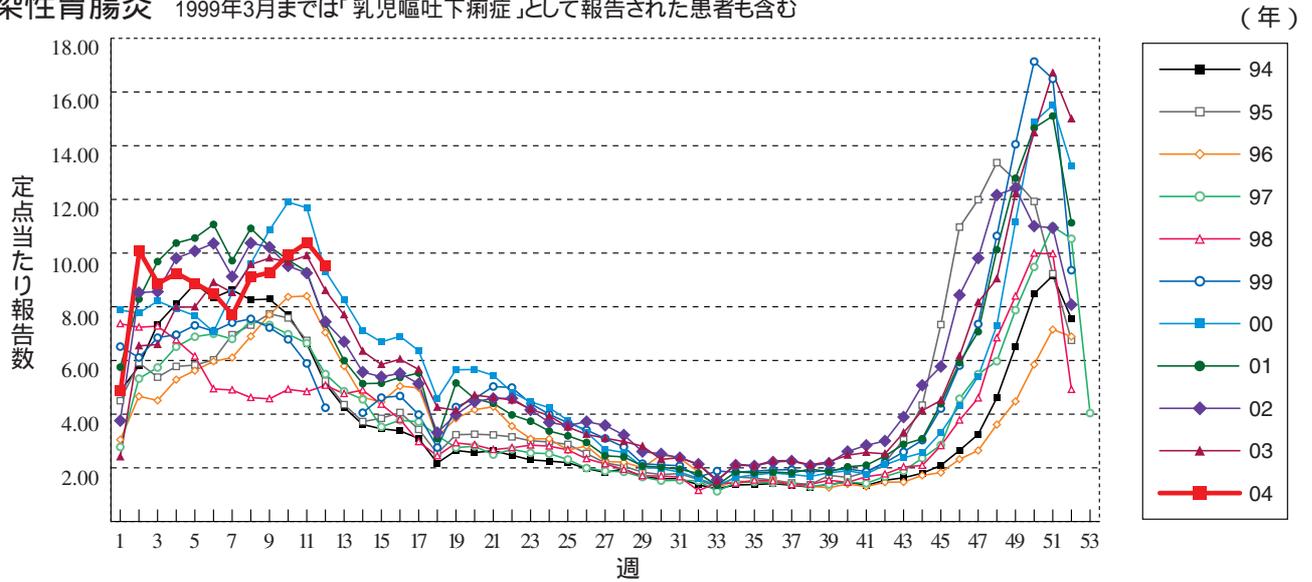
咽頭結膜熱



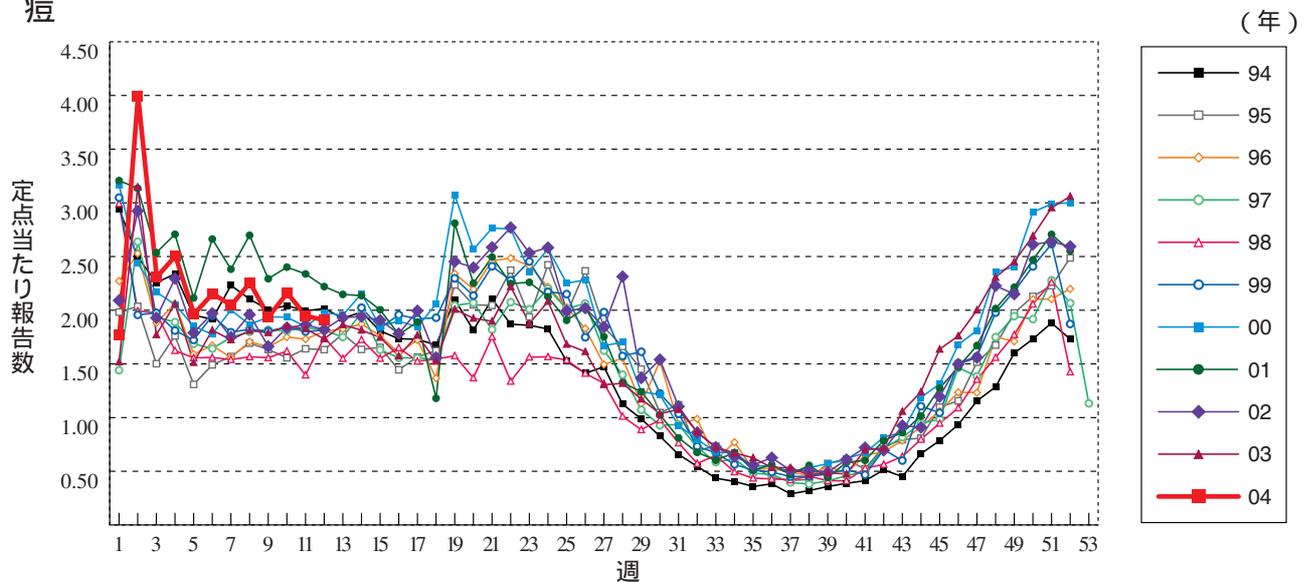
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



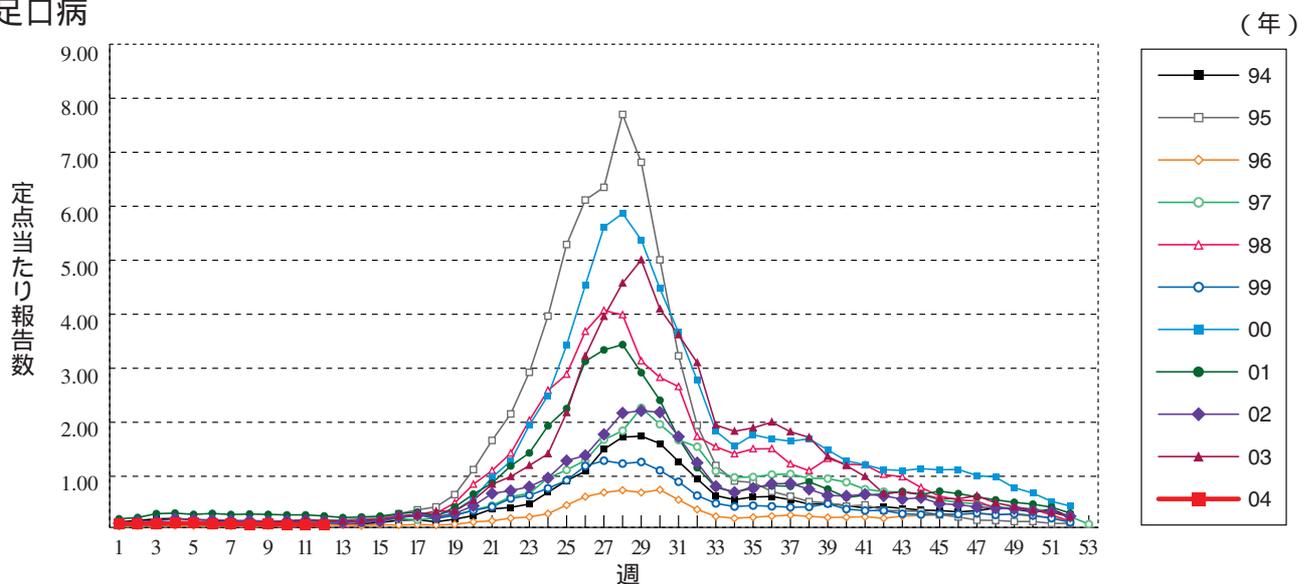
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



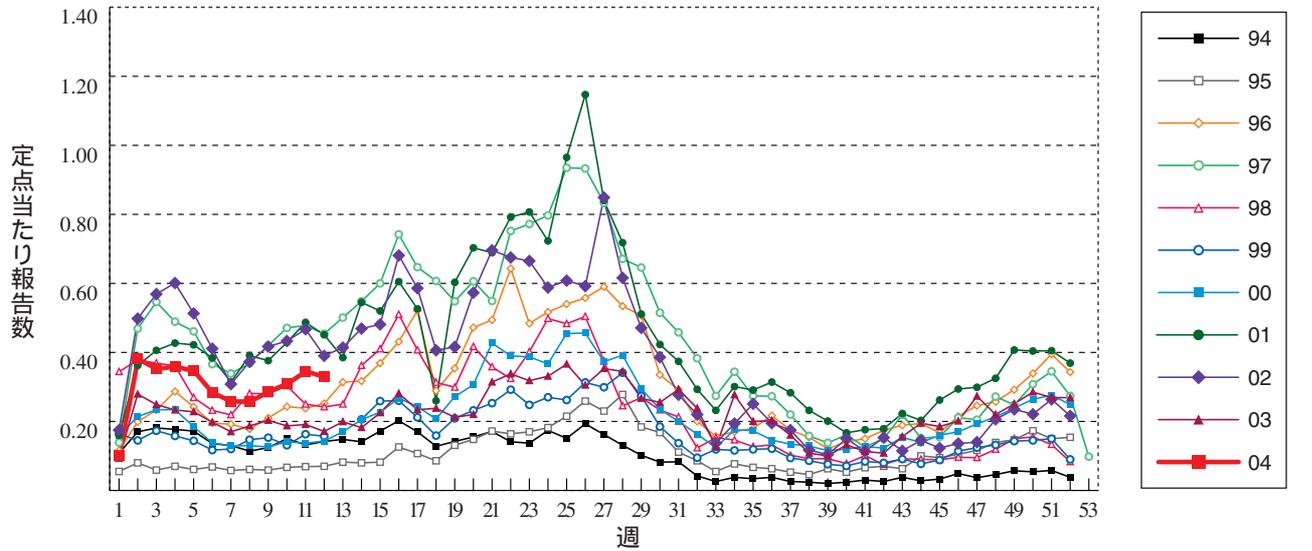
水痘



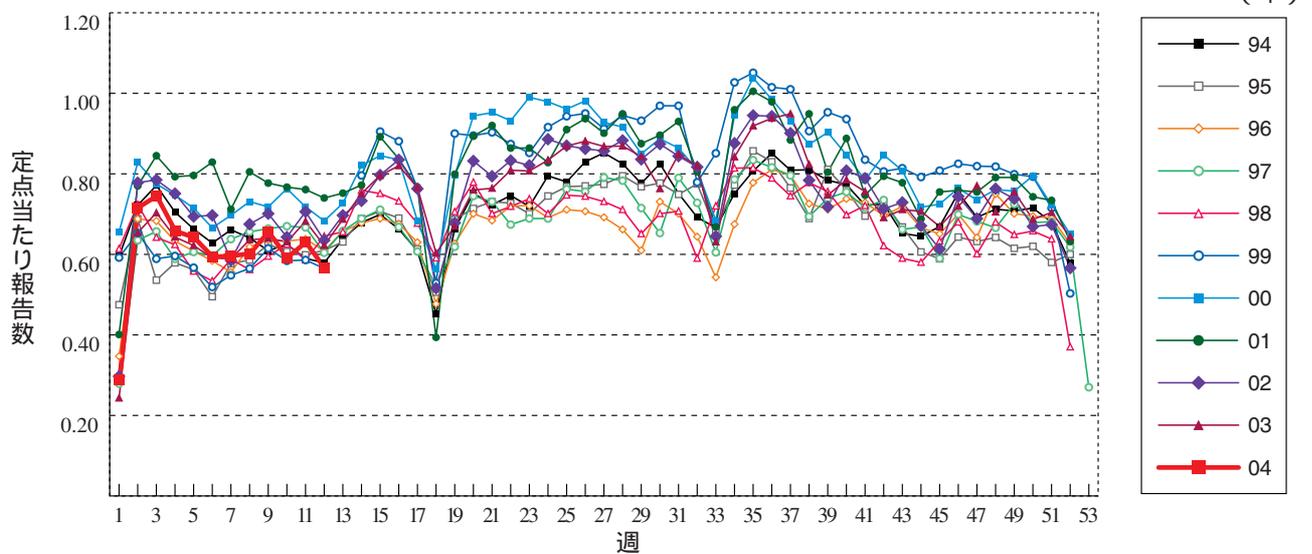
手足口病



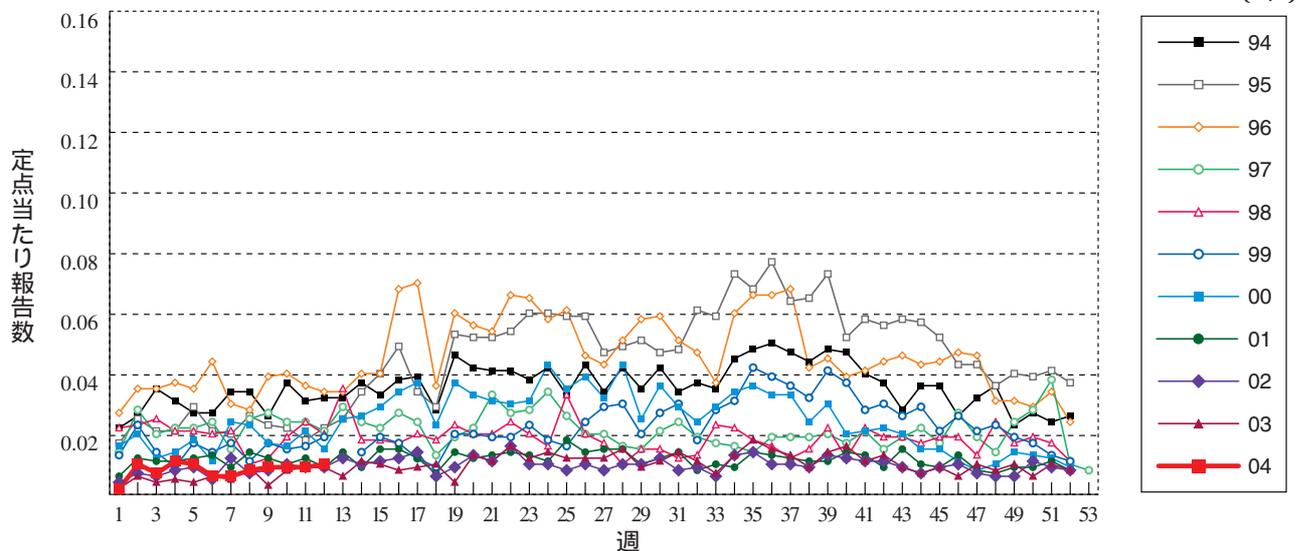
伝染性紅斑



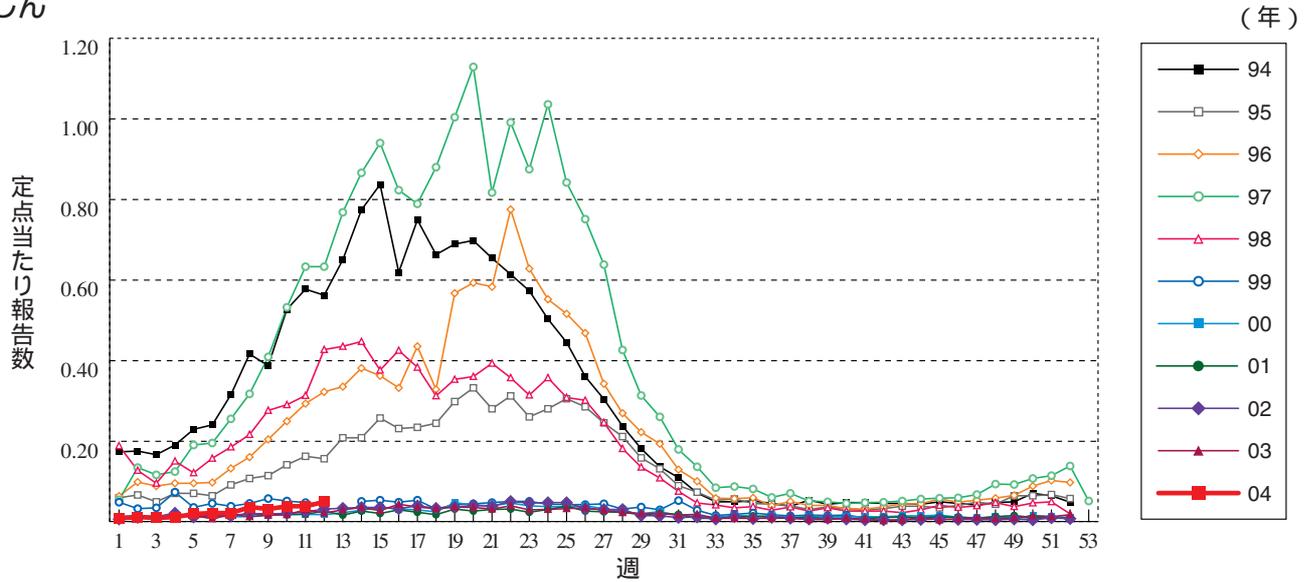
突発性発しん



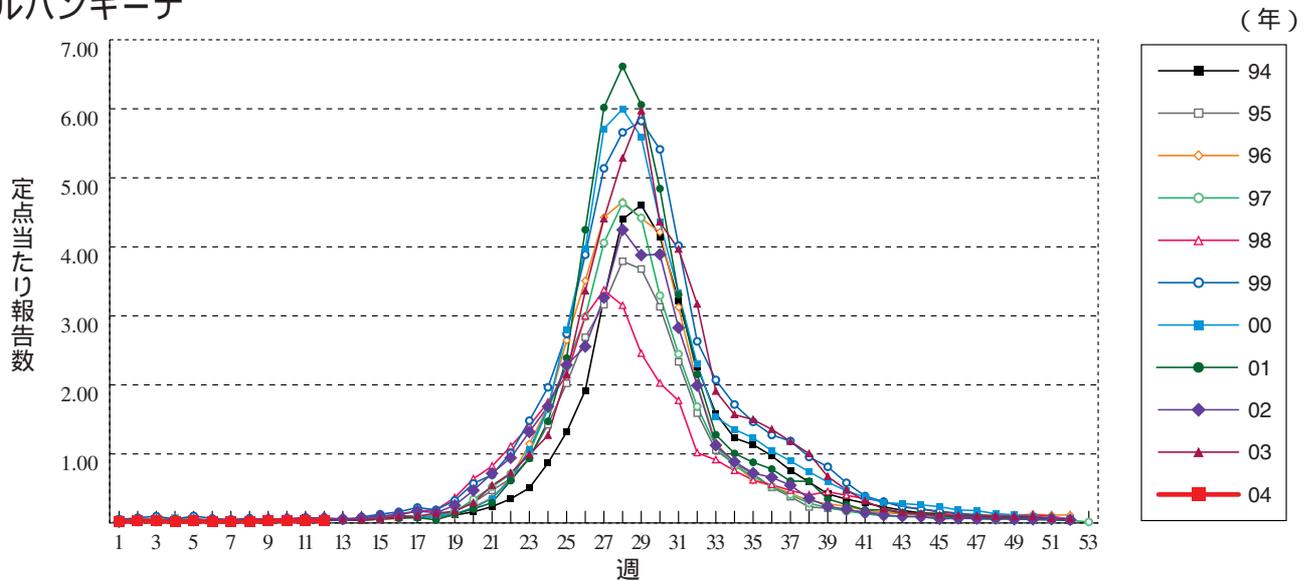
百日咳



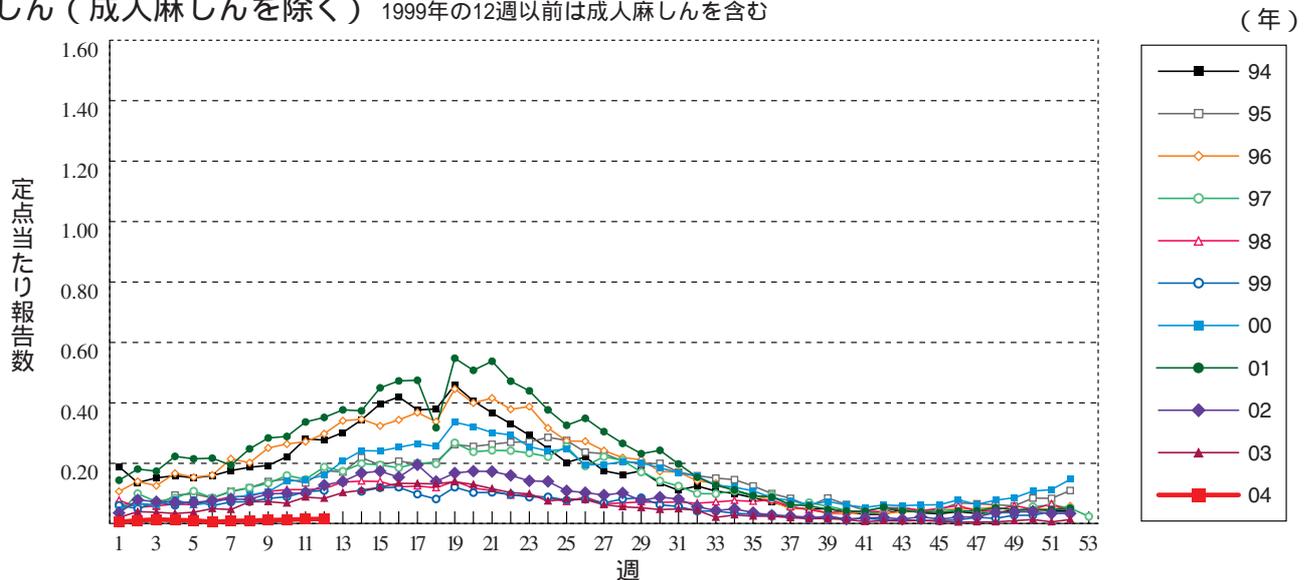
風しん



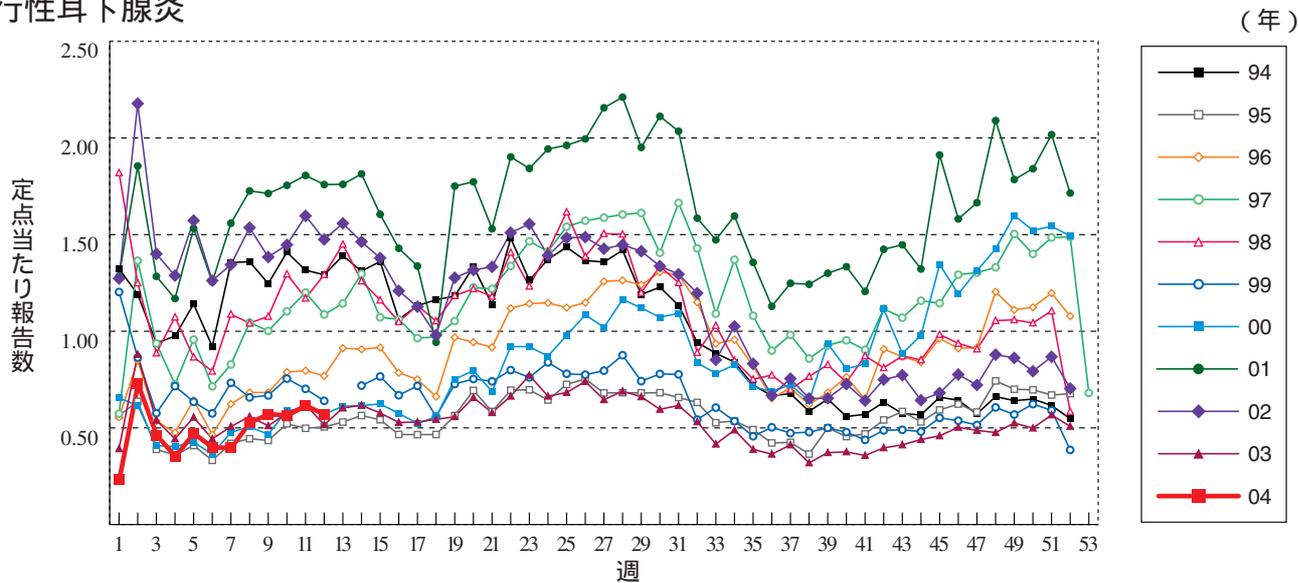
ヘルパンギーナ



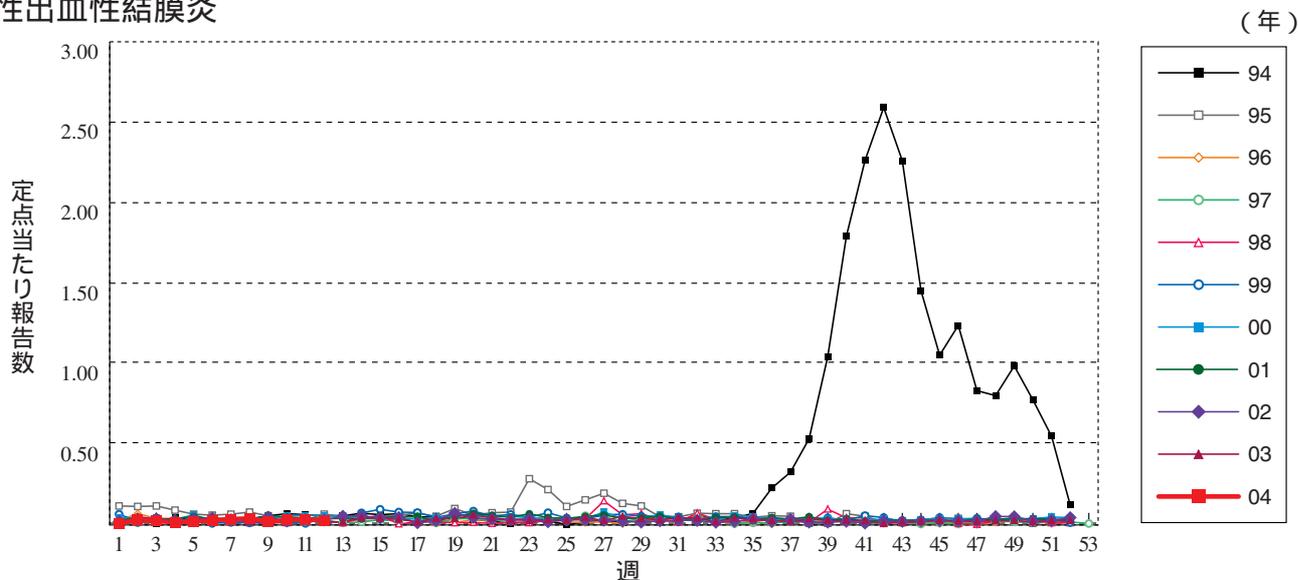
麻しん (成人麻しんを除く) 1999年の12週以前は成人麻しんを含む



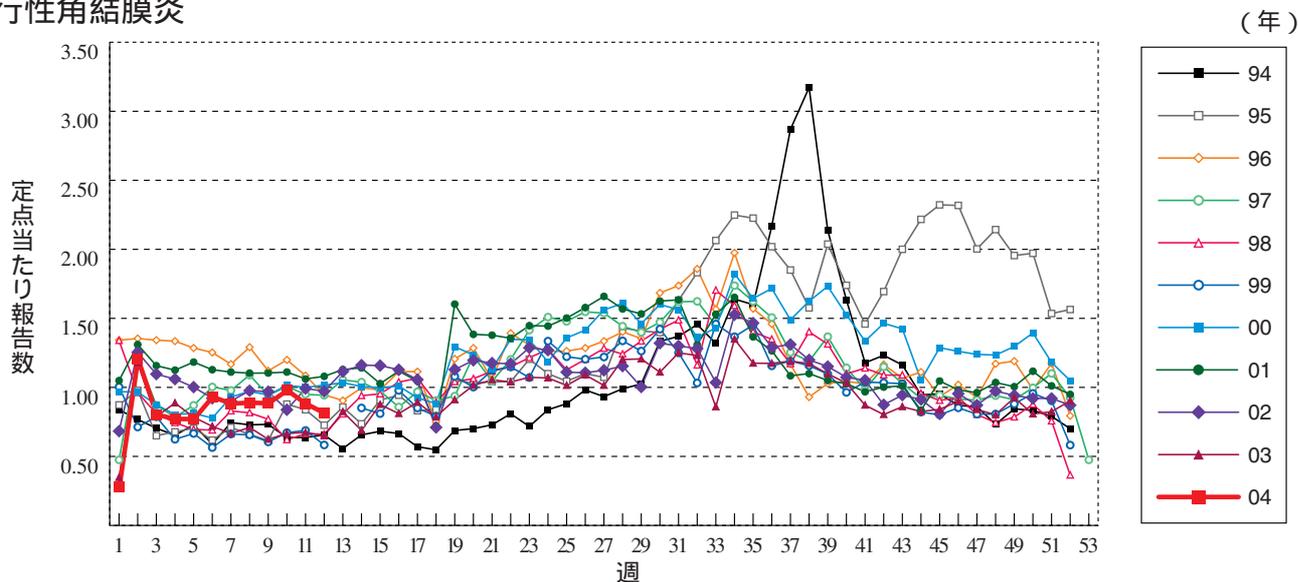
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

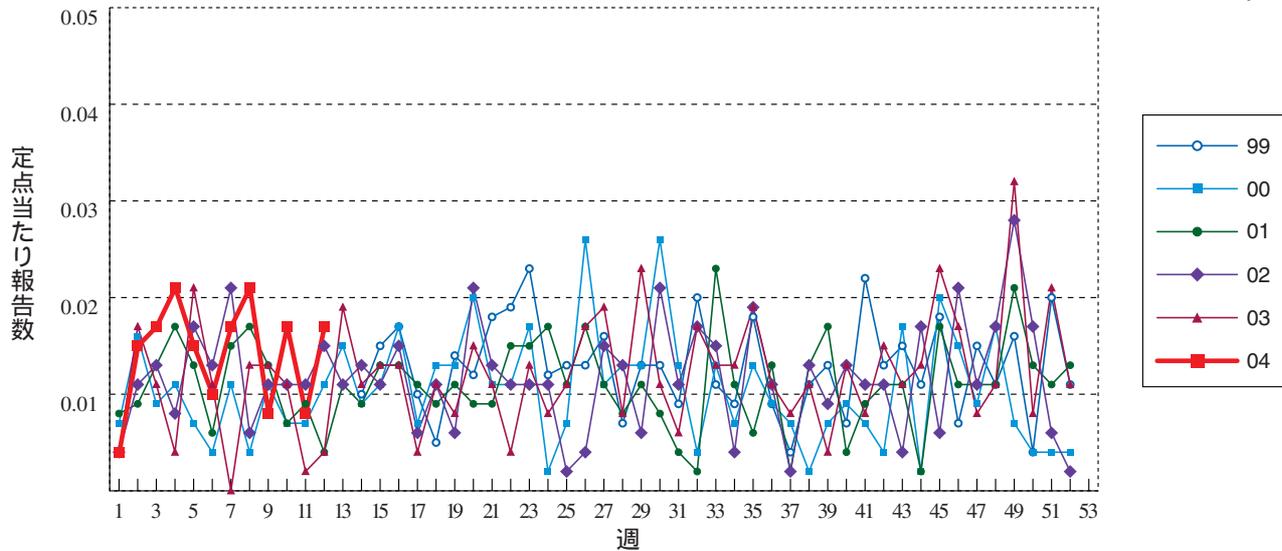


流行性角結膜炎



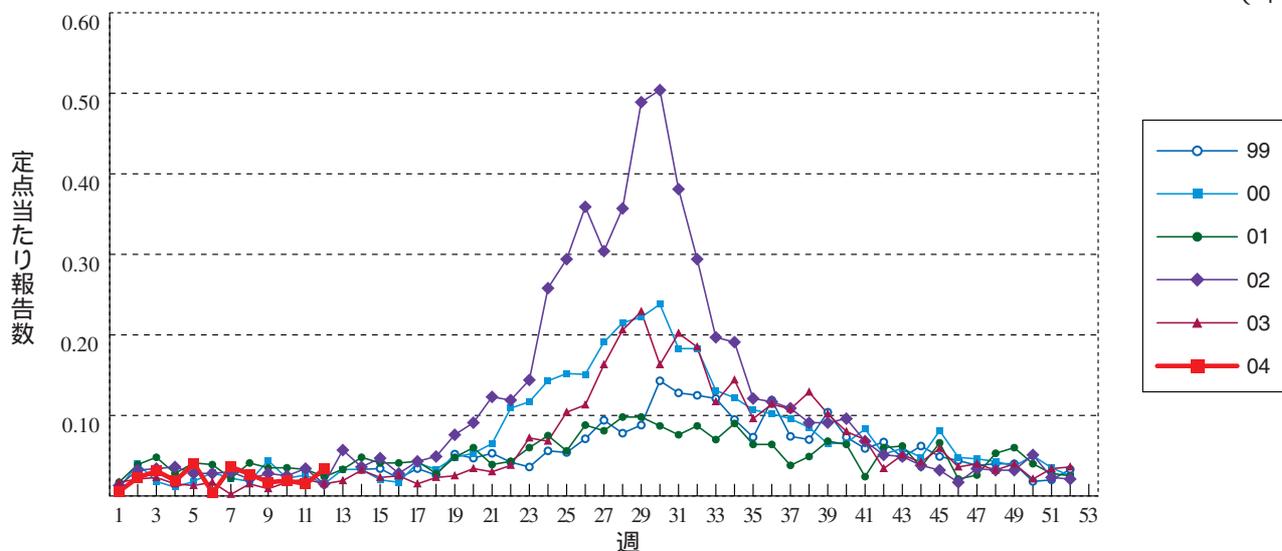
細菌性髄膜炎

(年)



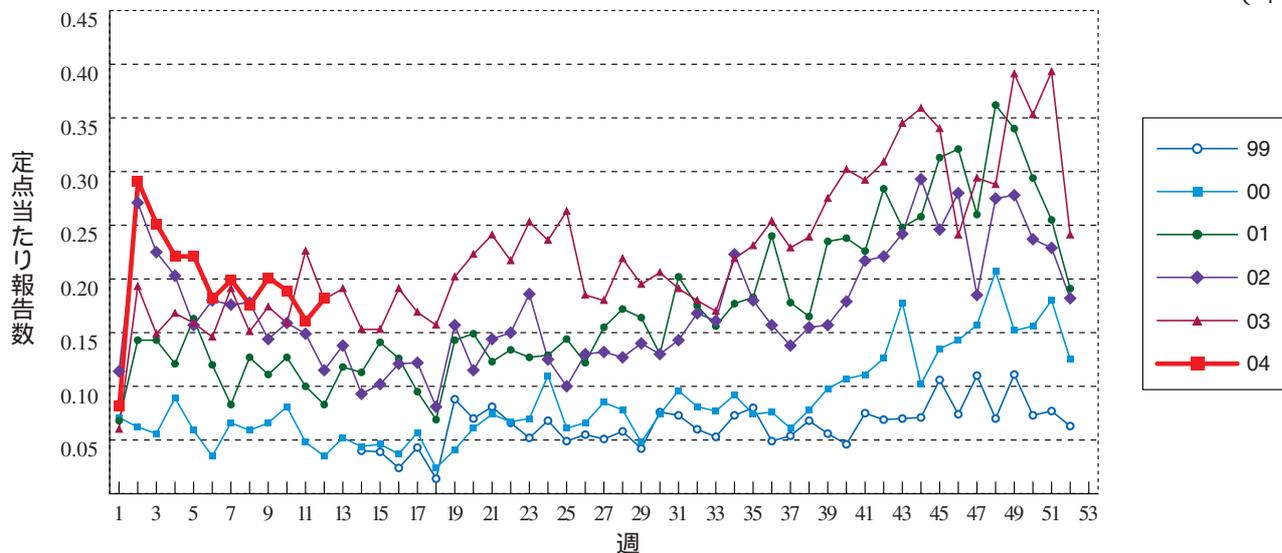
無菌性髄膜炎

(年)



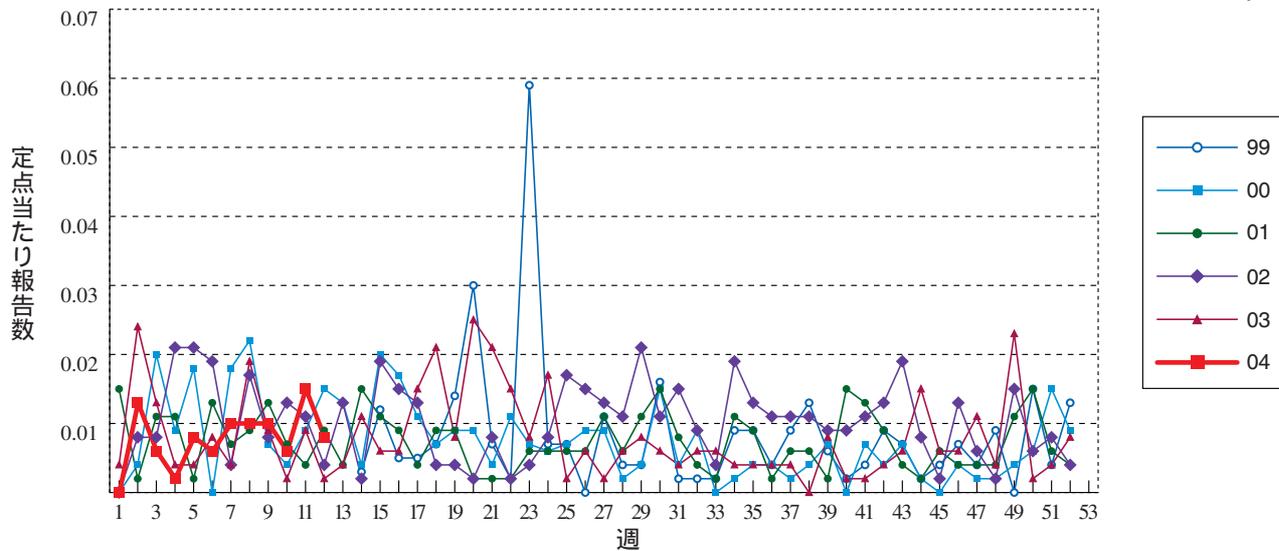
マイコプラズマ肺炎

(年)



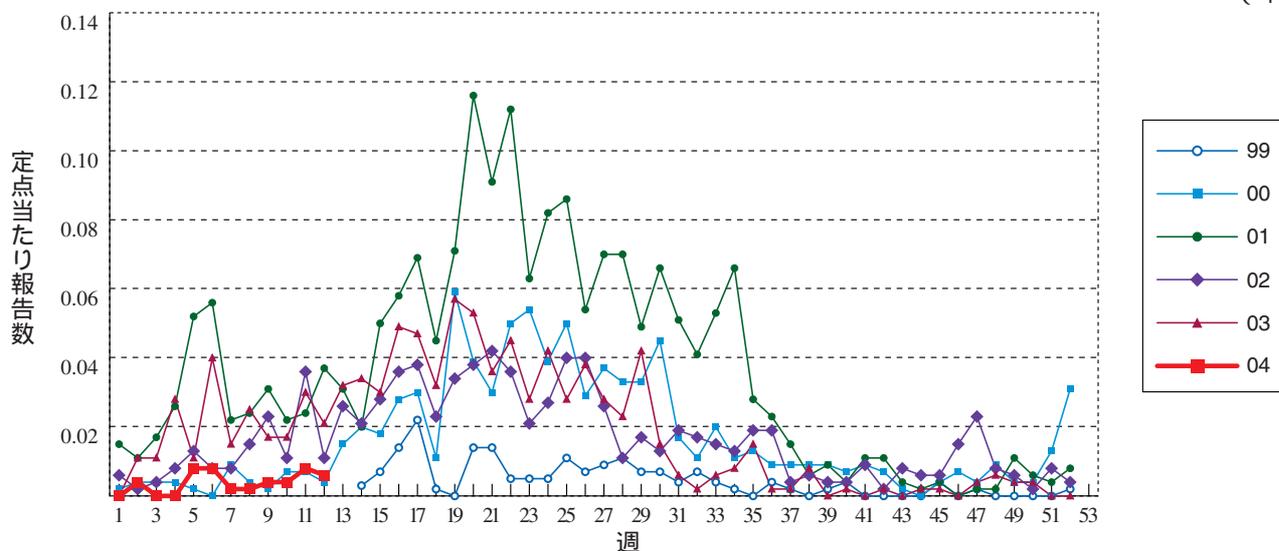
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





12週のデータ

注)表中の報告数は3月25日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

平成16年12週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	72	1	4	-	3	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	22	-	1	-	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	-	-	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	2	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年12週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	10	86	7	114	-	9	-	-	-	6	-	-	2	54
北海道	-	-	-	-	-	2	-	4	-	9	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
千葉県	-	-	-	-	2	3	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
東京都	-	-	-	-	-	16	2	29	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
神奈川県	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
静岡県	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大阪府	-	-	-	-	-	7	2	11	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
兵庫県	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年12週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	2	-	-	-	1	2	36	1	13	10	190	-	1	2	13	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3	4	71	-	-	1	4	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	12	-	-	-	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	3	25	-	-	-	3	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年12週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		炭疽		つつが虫病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		梅毒		破傷風	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	7	-	2	-	-	2	47	2	4	-	-	-	-	2	101	1	11
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1
茨城県	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
東京都	-	2	-	1	-	-	5	2	3	-	-	-	-	-	-	13	-	1
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	6	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年12週

	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス 肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発しんチフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	4	24
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
秋田県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	2
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年12週

	重症急性 呼吸器症候群		痘 そ う		E型肝炎		ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)		A型肝炎		高病原性鳥 インフルエンザ		サ ル 痘		ニバウイルス 感染症		ポツリヌス症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	6	-	-	1	41	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成16年12週

	野 兎 病		リッサウイルス 感染症		レプトスピラ症		急性脳炎		バンコマイシン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	1	-	8	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日: 平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、全数把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

表でみる「重症急性呼吸器症候群」以降の14の疾患は新システムでの追加疾患、および変更疾患(「乳児ボツリヌス症」「ボツリヌス症」「定点疾患「急性脳炎」全数疾患「急性脳炎」)です。「ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)」は平成14年11月に追加された疾患です。

旧システムにおける「ウイルス性肝炎」に含まれていた「E型肝炎」「A型肝炎」が独立した疾患となり、新システムにおける「ウイルス性肝炎」はE型肝炎、A型肝炎を除く肝炎となります。

注)表の最後の注釈を参照して下さい。

報告数・定点当り報告数、疾病・都道府県別

平成16年12週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	9574	2.04	725	0.24	6533	2.15	28988	9.54	5793	1.91	151	0.05	999	0.33	1722	0.57	31	0.01
北海道	1005	4.45	31	0.22	404	2.83	425	2.97	168	1.17	4	0.03	55	0.38	67	0.47	-	-
青森県	206	3.22	10	0.24	62	1.48	187	4.45	46	1.10	-	-	4	0.10	24	0.57	-	-
岩手県	76	1.23	2	0.05	99	2.61	147	3.87	36	0.95	-	-	7	0.18	10	0.26	-	-
宮城県	104	1.14	13	0.22	265	4.49	493	8.36	147	2.49	5	0.08	27	0.46	49	0.83	-	-
秋田県	210	3.82	13	0.37	119	3.40	156	4.46	36	1.03	5	0.14	1	0.03	14	0.40	-	-
山形県	105	2.19	20	0.67	202	6.73	219	7.30	64	2.13	-	-	47	1.57	16	0.53	1	0.03
福島県	176	2.20	7	0.15	88	1.83	485	10.10	67	1.40	1	0.02	9	0.19	33	0.69	1	0.02
茨城県	105	0.92	5	0.07	291	3.93	475	6.42	104	1.41	5	0.07	8	0.11	28	0.38	1	0.01
栃木県	54	0.77	1	0.02	70	1.52	354	7.70	76	1.65	2	0.04	6	0.13	19	0.41	-	-
群馬県	135	1.36	6	0.10	134	2.20	510	8.36	90	1.48	-	-	17	0.28	45	0.74	2	0.03
埼玉県	148	0.58	48	0.30	568	3.59	1948	12.33	307	1.94	2	0.01	74	0.47	115	0.73	3	0.02
千葉県	109	0.53	32	0.25	395	3.04	1388	10.68	291	2.24	8	0.06	54	0.42	78	0.60	-	-
東京都	91	0.51	12	0.08	177	1.25	1134	7.99	146	1.03	2	0.01	73	0.51	51	0.36	-	-
神奈川県	214	0.64	62	0.30	458	2.22	1904	9.24	377	1.83	3	0.01	80	0.39	122	0.59	1	0.00
新潟県	271	2.74	34	0.57	478	7.97	542	9.03	115	1.92	1	0.02	81	1.35	41	0.68	-	-
富山県	118	2.46	35	1.21	155	5.34	363	12.52	83	2.86	1	0.03	10	0.34	8	0.28	2	0.07
石川県	136	2.83	10	0.34	56	1.93	311	10.72	78	2.69	17	0.59	25	0.86	12	0.41	-	-
福井県	241	7.53	7	0.32	78	3.55	279	12.68	49	2.23	-	-	24	1.09	16	0.73	1	0.05
山梨県	30	0.73	1	0.04	56	2.24	118	4.72	22	0.88	-	-	8	0.32	7	0.28	-	-
長野県	199	2.29	2	0.04	104	1.89	534	9.71	77	1.40	-	-	20	0.36	28	0.51	3	0.05
岐阜県	98	1.17	19	0.36	43	0.81	258	4.87	94	1.77	3	0.06	9	0.17	20	0.38	-	-
静岡県	221	1.61	9	0.10	113	1.31	1221	14.20	210	2.44	4	0.05	25	0.29	51	0.59	-	-
愛知県	435	2.23	44	0.24	317	1.74	1332	7.32	341	1.87	7	0.04	64	0.35	82	0.45	2	0.01
三重県	54	0.74	18	0.40	94	2.09	689	15.31	60	1.33	2	0.04	10	0.22	30	0.67	-	-
滋賀県	87	1.71	3	0.09	46	1.39	287	8.70	61	1.85	4	0.12	5	0.15	13	0.39	-	-
京都府	125	0.99	1	0.01	62	0.82	706	9.29	75	0.99	1	0.01	14	0.18	33	0.43	-	-
大阪府	211	0.72	37	0.19	248	1.27	1682	8.63	304	1.56	10	0.05	42	0.22	82	0.42	2	0.01
兵庫県	246	1.24	21	0.16	156	1.22	1484	11.59	303	2.37	21	0.16	35	0.27	93	0.73	2	0.02
奈良県	58	1.05	12	0.34	25	0.71	437	12.49	42	1.20	-	-	10	0.29	15	0.43	-	-
和歌山県	75	1.50	6	0.19	11	0.35	326	10.52	59	1.90	-	-	13	0.42	14	0.45	-	-
鳥取県	33	1.14	16	0.84	80	4.21	201	10.58	48	2.53	-	-	-	-	16	0.84	-	-
島根県	98	2.58	5	0.22	30	1.30	134	5.83	47	2.04	-	-	3	0.13	11	0.48	-	-
岡山県	140	1.67	7	0.13	48	0.89	567	10.50	83	1.54	1	0.02	8	0.15	24	0.44	-	-
広島県	229	1.91	29	0.39	108	1.44	958	12.77	107	1.43	2	0.03	31	0.41	48	0.64	-	-
山口県	395	5.64	17	0.35	74	1.51	620	12.65	124	2.53	-	-	7	0.14	51	1.04	1	0.02
徳島県	35	0.92	15	0.65	21	0.91	288	12.52	41	1.78	4	0.17	7	0.30	15	0.65	1	0.04
香川県	92	1.80	6	0.19	41	1.28	231	7.22	85	2.66	-	-	10	0.31	13	0.41	-	-
愛媛県	169	2.64	9	0.23	92	2.36	526	13.49	119	3.05	1	0.03	5	0.13	35	0.90	-	-
高知県	116	2.37	3	0.10	52	1.68	269	8.68	61	1.97	-	-	-	-	19	0.61	-	-
福岡県	697	3.52	15	0.13	288	2.40	1716	14.30	413	3.44	9	0.08	20	0.17	94	0.78	4	0.03
佐賀県	86	2.21	6	0.26	36	1.57	337	14.65	48	2.09	6	0.26	-	-	24	1.04	-	-
長崎県	346	4.94	7	0.16	28	0.64	396	9.00	87	1.98	-	-	2	0.05	19	0.43	-	-
熊本県	268	3.31	6	0.12	84	1.71	558	11.39	111	2.27	13	0.27	3	0.06	35	0.71	-	-
大分県	551	9.50	4	0.11	56	1.56	709	19.69	75	2.08	-	-	23	0.64	28	0.78	-	-
宮崎県	318	5.48	44	1.26	71	2.03	572	16.34	126	3.60	-	-	14	0.40	27	0.77	1	0.03
鹿児島県	374	3.90	14	0.24	37	0.64	437	7.53	163	2.81	-	-	5	0.09	30	0.52	2	0.03
沖縄県	284	4.90	1	0.03	13	0.38	75	2.21	127	3.74	7	0.21	4	0.12	17	0.50	1	0.03

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成16年12週

	風しん		ヘルパンギーナ		麻しん (成人麻しんを除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ 肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	150	0.05	104	0.03	45	0.01	1729	0.57	17	0.03	518	0.81	8	0.02	16	0.03	87	0.18
北海道	1	0.01	2	0.01	-	-	96	0.67	1	0.03	23	0.79	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	3	0.07	-	-	36	0.86	-	-	7	0.64	-	-	-	-	1	0.17
岩手県	-	-	1	0.03	-	-	10	0.26	-	-	15	1.25	-	-	-	-	4	0.20
宮城県	20	0.34	1	0.02	-	-	22	0.37	1	0.09	3	0.27	-	-	-	-	7	0.58
秋田県	-	-	-	-	-	-	3	0.09	-	-	2	0.29	-	-	-	-	5	0.71
山形県	-	-	-	-	1	0.03	10	0.33	-	-	3	0.38	1	0.10	1	0.10	8	0.80
福島県	1	0.02	1	0.02	3	0.06	19	0.40	1	0.08	15	1.25	-	-	-	-	3	0.43
茨城県	-	-	-	-	1	0.01	14	0.19	1	0.06	33	2.06	-	-	-	-	-	-
栃木県	7	0.15	1	0.02	-	-	3	0.07	-	-	14	1.17	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	26	0.43	3	0.05	1	0.02	44	0.72	-	-	35	2.50	-	-	1	0.10	1	0.10
埼玉県	17	0.11	5	0.03	6	0.04	131	0.83	-	-	14	0.38	-	-	-	-	-	-
千葉県	4	0.03	2	0.02	-	-	72	0.55	1	0.03	30	0.91	-	-	1	0.08	-	-
東京都	6	0.04	4	0.03	1	0.01	24	0.17	-	-	25	1.79	1	0.04	1	0.04	5	0.20
神奈川県	9	0.04	6	0.03	2	0.01	110	0.53	1	0.02	40	0.95	2	0.17	3	0.25	-	-
新潟県	3	0.05	-	-	-	-	77	1.28	-	-	7	0.78	-	-	2	0.17	4	0.33
富山県	2	0.07	-	-	-	-	19	0.66	-	-	7	1.00	-	-	-	-	2	0.40
石川県	1	0.03	-	-	-	-	5	0.17	-	-	1	0.14	-	-	1	0.20	1	0.20
福井県	-	-	-	-	1	0.05	7	0.32	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	2	0.08	-	-	7	2.33	-	-	-	-	2	0.20
長野県	-	-	-	-	1	0.02	5	0.09	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1	0.02	1	0.02	1	0.02	62	1.17	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	-	-	-	-	74	0.86	-	-	7	0.35	-	-	-	-	3	0.30
愛知県	3	0.02	8	0.04	4	0.02	141	0.77	-	-	22	0.63	-	-	-	-	2	0.15
三重県	-	-	-	-	-	-	10	0.22	1	0.08	6	0.50	-	-	-	-	2	0.22
滋賀県	-	-	2	0.06	-	-	26	0.79	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.29
京都府	2	0.03	1	0.01	-	-	32	0.42	-	-	6	0.32	-	-	1	0.14	-	-
大阪府	5	0.03	8	0.04	2	0.01	114	0.58	3	0.06	15	0.31	-	-	1	0.07	-	-
兵庫県	1	0.01	1	0.01	13	0.10	92	0.72	1	0.03	23	0.66	-	-	1	0.08	2	0.15
奈良県	-	-	1	0.03	-	-	13	0.37	-	-	2	0.22	-	-	-	-	3	0.50
和歌山県	-	-	2	0.06	-	-	34	1.10	-	-	-	-	1	0.09	-	-	3	0.27
鳥取県	-	-	-	-	-	-	3	0.16	-	-	4	1.33	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	19	0.83	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.38
岡山県	-	-	1	0.02	-	-	18	0.33	1	0.08	17	1.42	-	-	-	-	6	1.20
広島県	-	-	10	0.13	-	-	21	0.28	-	-	22	1.10	-	-	2	0.10	1	0.05
山口県	1	0.02	2	0.04	-	-	77	1.57	-	-	5	0.56	-	-	-	-	3	0.33
徳島県	-	-	1	0.04	7	0.30	6	0.26	-	-	-	-	1	0.14	-	-	1	0.14
香川県	-	-	2	0.06	-	-	16	0.50	-	-	4	1.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	2	0.05	-	-	18	0.46	-	-	14	2.00	-	-	-	-	1	0.17
高知県	-	-	-	-	-	-	36	1.16	-	-	3	1.00	-	-	-	-	1	0.11
福岡県	14	0.12	6	0.05	-	-	116	0.97	-	-	10	0.38	1	0.07	-	-	3	0.20
佐賀県	-	-	2	0.09	-	-	25	1.09	-	-	3	0.75	-	-	-	-	2	0.33
長崎県	2	0.05	2	0.05	-	-	12	0.27	2	0.25	9	1.13	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	21	0.43	-	-	14	0.29	-	-	23	2.56	1	0.07	-	-	2	0.13
大分県	12	0.33	-	-	-	-	8	0.22	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	14	0.40	-	-	8	2.00	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	11	0.19	2	0.03	1	0.02	15	0.26	-	-	7	1.00	-	-	1	0.08	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	4	0.12	3	0.30	15	1.50	-	-	-	-	-	-

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成16年12週

	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻しん		RSウイルス 感染症
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	
総 数	4	0.01	3	0.01	76
北海道	-	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	...
宮城県	2	0.17	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	1
山形県	-	-	1	0.10	-
福島県	-	-	2	0.29	3
茨城県	-	-	-	-	...
栃木県	-	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	...
埼玉県	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	5
東京都	-	-	-	-	5
神奈川県	-	-	-	-	5
新潟県	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	1
山梨県	1	0.10	-	-	...
長野県	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	...
静岡県	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	4
兵庫県	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	8
和歌山県	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	...
島根県	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	...
広島県	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	...
徳島県	-	-	-	-	...
香川県	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	9
佐賀県	1	0.17	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	...
鹿児島県	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	...

定点把握疾患表注釈

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の改正(施行日:平成15年11月5日、IDWR週報2003年43号参照)により、定点把握疾患の対象疾患、分類、疾患名の記載方法が一部変更されました。

改正により「RSウイルス感染症」が追加されましたが、ゼロ報告も含めて報告自体がなされていない都道府県(…)が多く見られ、その報告はまだ十分ではありません。そのため、「感染症週報」の情報還元としては、報告数のみの掲載とします。宜しく御理解ください。

感染症週報 第6巻 第12号 平成16年4月2日発行
発 行: 国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課

厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局: 国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

< 国立感染症研究所 感染症情報センター >

<http://www.mhlw.go.jp/>

< 厚生労働省 >

<http://www.forth.go.jp/>

< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。